第２章　福岡市の犯罪情勢について

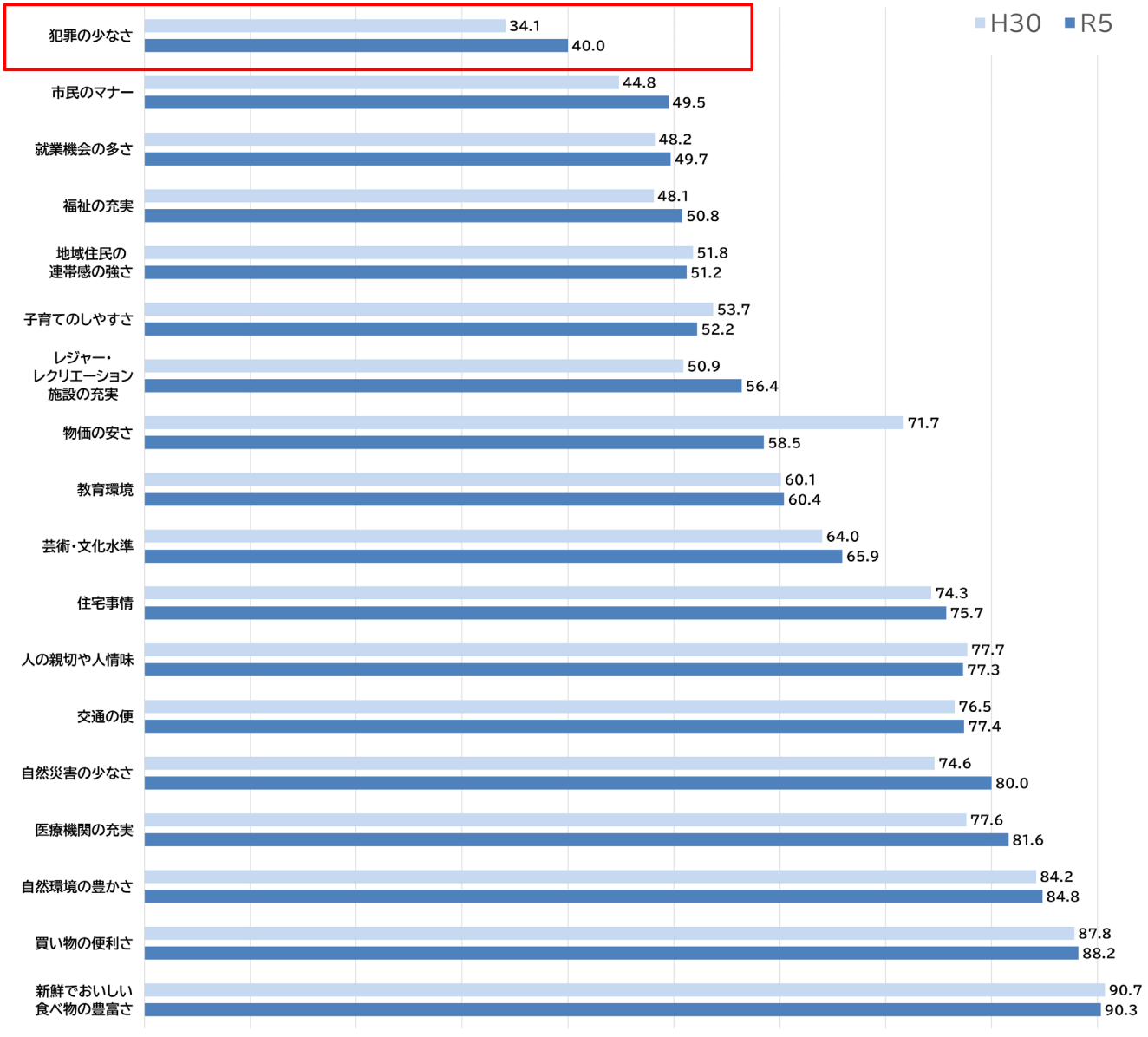
１　防犯に関する市民の意識

（1）犯罪の少なさに対する満足度

「市政に関する意識調査」の「福岡市の都市環境などに関する満足度」の中で、「犯罪の少なさ」に対する令和5年度の満足度は40.0％となっており、前回の計画策定時の平成30年度の満足度34.1%と比較して、5.9ポイント上昇しているものの、まだ改善が必要な状況となっています。

〈図表１〉「福岡市の都市環境などに関する満足度調査」における「満足している」割合

（平成30年度と令和５年度の比較）　　（%）

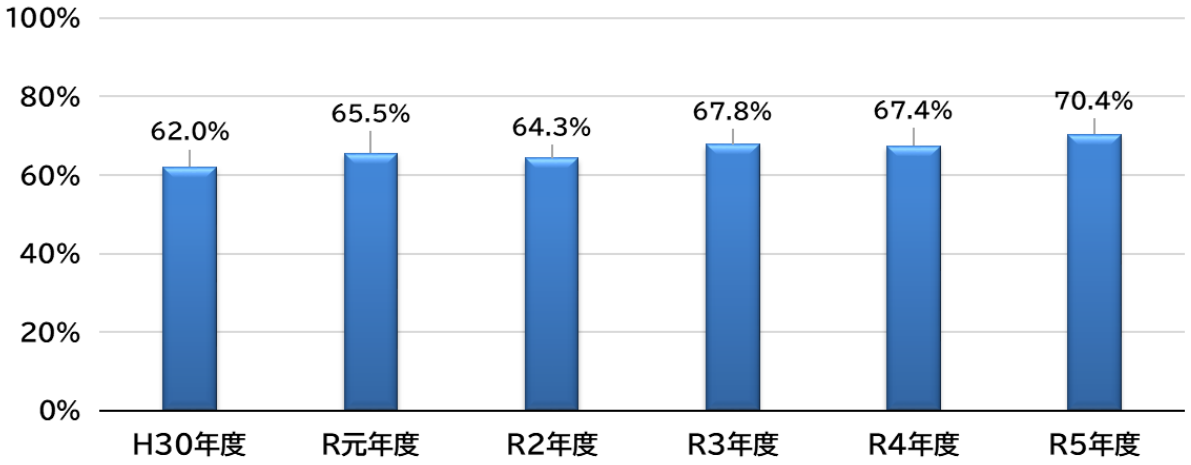


出典：福岡市市長室「市政に関する意識調査」

（2）地域の犯罪の少なさに対する意識

令和5年度に実施した「基本計画の成果指標に関する意識調査」の中で、「自分の住んでいる地域が犯罪の少ない安全なまちだと思う人」の割合は70.4%と、目標の70%に到達しています。

〈図表2〉「自分の住んでいる地域が犯罪の少ない安全なまちだと思う人」の割合

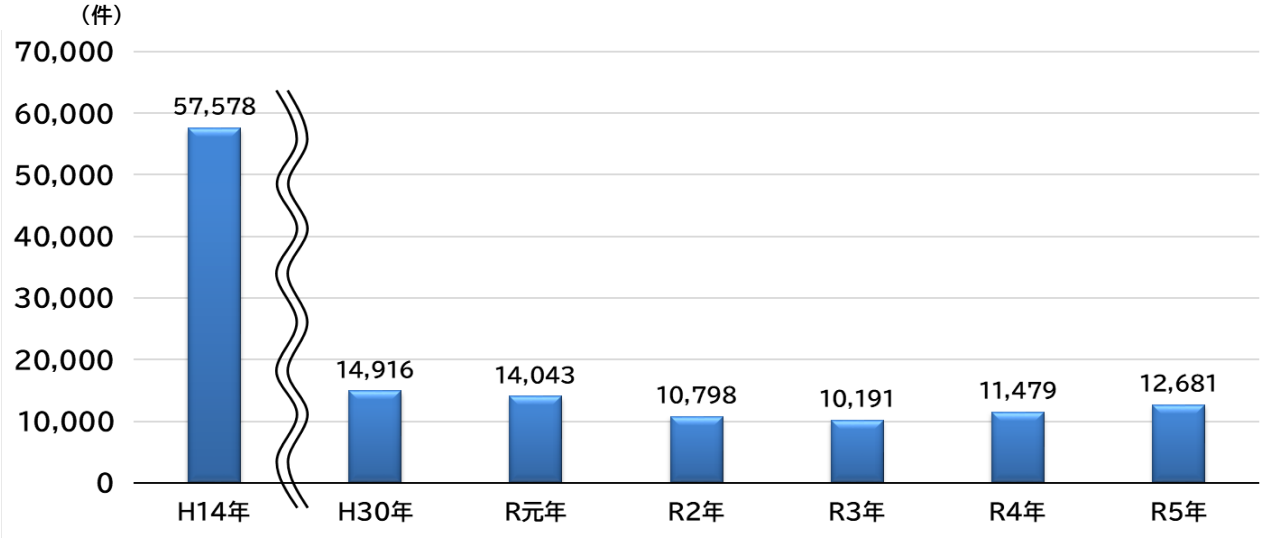


出典：福岡市総務企画局「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査」

2 刑法犯認知件数の推移

本市の刑法犯認知件数は、平成14年の57,578件をピークに減少しており、令和5年は12,681件とピーク時に比べ約2割に減少していますが、人口千人当たりの刑法犯認知件数で見ると、政令指定都市中ワースト上位に位置しており、未だ憂慮すべき状況です。

〈図表３〉福岡市における刑法犯認知件数の推移



政令指定都市における人口千人当たりの刑法犯認知件数の福岡市のワースト順位	３位	２位	４位	３位	４位	４位

提供：福岡県警察

包括罪種別(※)に見た刑法犯認知件数は、他の政令指定都市と同様に、窃盗犯の刑法犯認知件数が最も多く、本市において令和5年の割合は、約7割を占めています。

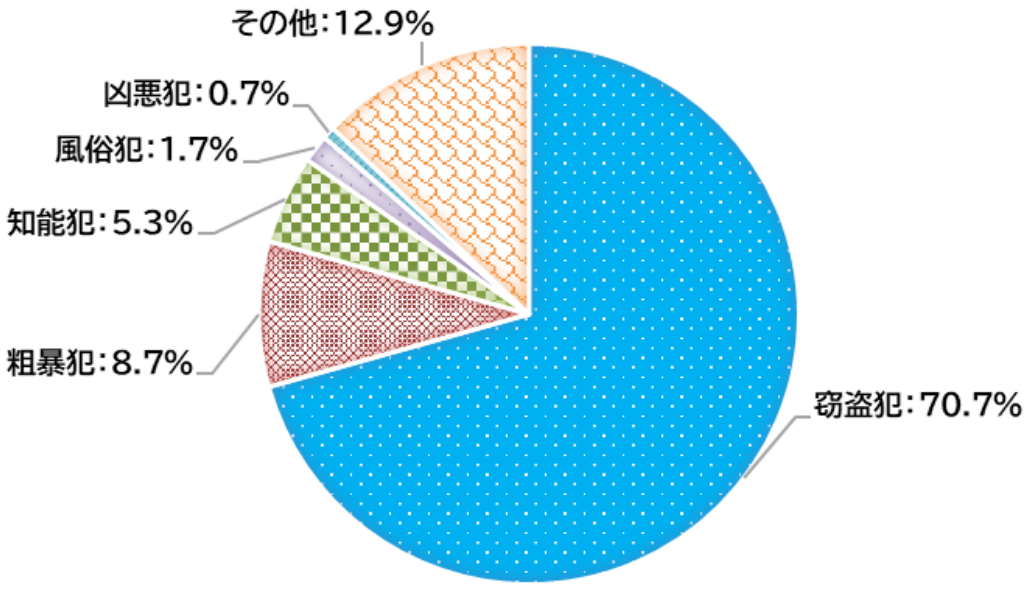
（※）包括罪種（類似性の強い罪種を包括した分類名称）の内容

〈図表４〉福岡市における刑法犯（包括罪種別）認知件数の推移　（件）

区　分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
窃盗犯	10,870	10,183	7,393	7,220	8,299	8,961
粗暴犯	1,152	1,397	1,210	1,132	1,080	1,101
知能犯	574	389	468	350	425	675
風俗犯	255	170	132	153	144	211
凶悪犯	80	87	63	66	57	95
その他	1,985	1,817	1,532	1,270	1,474	1,638
総　数	14,916	14,043	10,798	10,191	11,479	12,681

提供：福岡県警察

〈図表５〉福岡市における刑法犯認知件数の包括罪種別内訳（令和５年）



提供：福岡県警察

〈参考〉

包括罪種名	罪種・手口
窃盗犯	車上ねらい、自転車盗、空き巣等
粗暴犯	暴行、脅迫、恐喝等
知能犯	詐欺、横領、通貨偽造等
風俗犯	賭博、不同意わいせつ、公然わいせつ等
凶悪犯	殺人、強盗、放火、不同意性交等
その他	占有離脱物横領、器物損壊等

〈図表６〉政令指定都市における包括罪種別の刑法犯認知件数（令和５年）

（件）

市名	刑法犯合計	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他	人口千人当たりの認知件数	順位
札幌市	11,263	92 (0.8%)	1,551 (13.8%)	7,628 (67.7%)	380 (3.4%)	255 (2.3%)	1,357 (12.0%)	5.72	12
仙台市	6,087	73 (1.2%)	431 (7.1%)	4,063 (66.7%)	605 (9.9%)	135 (2.2%)	780 (12.8%)	5.54	14
さいたま市	8,745	66 (0.8%)	724 (8.3%)	6,121 (70.0%)	520 (5.9%)	163 (1.9%)	1,151 (13.2%)	6.50	8
千葉市	7,020	59 (0.8%)	464 (6.6%)	5,253 (74.8%)	407 (5.8%)	87 (1.2%)	750 (10.7%)	7.16	6
川崎市	7,645	52 (0.7%)	463 (6.1%)	5,907 (77.3%)	471 (6.2%)	111 (1.5%)	641 (8.4%)	4.95	16
横浜市	16,059	163 (1.0%)	1,347 (8.4%)	11,162 (69.5%)	1,500 (9.3%)	304 (1.9%)	1,583 (9.9%)	4.26	20
相模原市	4,250	30 (0.7%)	216 (5.1%)	3,374 (79.4%)	153 (3.6%)	32 (0.8%)	445 (10.5%)	5.86	11
新潟市	3,979	21 (0.5%)	340 (8.5%)	2,759 (69.3%)	278 (7.0%)	51 (1.3%)	530 (13.3%)	5.16	15
静岡市	3,100	25 (0.8%)	381 (12.3%)	2,084 (67.2%)	160 (5.2%)	58 (1.9%)	392 (12.6%)	4.58	17
浜松市	3,572	33 (0.9%)	411 (11.5%)	2,389 (66.9%)	201 (5.6%)	45 (1.3%)	493 (13.8%)	4.52	18
名古屋市	19,857	194 (1.0%)	1,772 (8.9%)	13,282 (66.9%)	1,555 (7.8%)	198 (1.0%)	2,856 (14.4%)	8.53	2
京都市	8,104	53 (0.7%)	630 (7.8%)	5,816 (71.8%)	354 (4.4%)	159 (2.0%)	1,092 (13.5%)	5.62	13
大阪市	39,408	399 (1.0%)	2,602 (6.6%)	29,106 (73.9%)	2,144 (5.4%)	827 (2.1%)	4,330 (11.0%)	14.21	1
堺市	6,173	49 (0.8%)	370 (6.0%)	4,408 (71.4%)	384 (6.2%)	119 (1.9%)	843 (13.7%)	7.61	5
神戸市	12,014	113 (0.9%)	1,371 (11.4%)	7,119 (59.3%)	1,328 (11.1%)	283 (2.4%)	1,800 (15.0%)	8.02	3
岡山市	4,552	40 (0.9%)	373 (8.2%)	3,338 (73.3%)	199 (4.4%)	68 (1.5%)	534 (11.7%)	6.36	9
広島市	7,080	47 (0.7%)	554 (7.8%)	4,485 (63.3%)	719 (10.2%)	129 (1.8%)	1,146 (16.2%)	5.98	10
北九州市	6,044	52 (0.9%)	762 (12.6%)	3,594 (59.5%)	443 (7.3%)	141 (2.3%)	1,052 (17.4%)	6.60	7
福岡市	12,681	95 (0.7%)	1,101 (8.7%)	8,961 (70.7%)	675 (5.3%)	211 (1.7%)	1,638 (12.9%)	7.71	4
熊本市	3,238	37 (1.1%)	338 (10.4%)	2,221 (68.6%)	206 (6.4%)	62 (1.9%)	374 (11.6%)	4.39	19

（注）人口は令和５年12月1日付推計人口

提供：福岡県警察（その他政令指定都市は各都市に照会）

3　刑法犯認知件数における学生等の被害状況

「中学生以下」が被害者となった刑法犯認知件数は、過去4年間増加傾向にあります。また、令和5年の刑法犯認知件数のうち被害者の学職が「学生等」の内訳を見ると「大学生」の被害が1,119件で全体の8.8％と最も多くなっており、過去5年間の推移をみても同様の傾向となっています。

〈図表７〉被害者の学職別割合の推移

（件）

区　分			H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
学生等		小学生以下	238 (1.6%)	193 (1.4%)	151 (1.4%)	158 (1.6%)	176 (1.5%)	206 (1.6%)
		中学生	377 (2.5%)	346 (2.5%)	231 (2.1%)	242 (2.4%)	316 (2.8%)	421 (3.3%)
		小計	615 (4.1%)	539 (3.9%)	382 (3.5%)	400 (4.0%)	492 (4.3%)	627 (4.9%)
		高校生	634 (4.3%)	587 (4.2%)	398 (3.7%)	414 (4.1%)	582 (5.1%)	675 (5.3%)
		大学生	1,214 (8.1%)	1,146 (8.2%)	704 (6.5%)	695 (6.8%)	984 (8.6%)	1,119 (8.8%)
		専修学校等	665 (4.5%)	752 (5.4%)	488 (4.5%)	481 (4.7%)	623 (5.4%)	755 (6.0%)
有職			7,319 (49.1%)	6,466 (46.0%)	5,299 (49.1%)	4,786 (47.0%)	5,380 (46.9%)	5,714 (45.1%)
無職			1,468 (9.8%)	1,312 (9.3%)	1,140 (10.6%)	1,070 (10.5%)	1,104 (9.6%)	1,083 (8.5%)
その他			3,001 (20.1%)	3,241 (23.1%)	2,387 (22.1%)	2,345 (23.0%)	2,314 (20.2%)	2,708 (21.4%)
合計			14,916	14,043	10,798	10,191	11,479	12,681

提供：福岡県警察

4　犯罪の発生状況

（１）市民生活に身近な犯罪

①　福岡市の状況

本市では街頭防犯カメラの設置助成を行うなど、その台数を増やしてきました。

市民生活に身近な犯罪の認知件数ついて、平成30年と比較すると令和5年は2割ほど減少していますが、「自転車盗」の件数はほとんど減少しておらず、過半数を占めています。

（注）市民生活に身近な犯罪とは、車上ねらいや自転車盗、オートバイ盗など身のまわりで発生しやすい犯罪としています。（11罪種・手口）

〈図表８〉福岡市における市民生活に身近な犯罪の認知件数（罪種・手口別）の推移

（件）

区　分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
自転車盗	4,626 (55.0%)	4,437 (57.1%)	3,184 (55.4%)	3,133 (55.7%)	4,059 (62.6%)	4,302 (62.8%)
万引き	1,625 (19.3%)	1,702 (21.9%)	1,516 (26.4%)	1,664 (29.6%)	1,497 (23.1%)	1,582 (23.1%)
車上ねらい	610 (7.3%)	422 (5.4%)	283 (4.9%)	218 (3.9%)	296 (4.6%)	254 (3.7%)
住宅侵入窃盗	568 (6.8%)	430 (5.5%)	326 (5.7%)	190 (3.4%)	264 (4.1%)	237 (3.5%)
性犯罪	157 (1.9%)	121 (1.6%)	71 (1.2%)	95 (1.7%)	100 (1.5%)	157 (2.3%)
オートバイ盗	445 (5.3%)	237 (3.1%)	137 (2.4%)	143 (2.5%)	123 (1.9%)	128 (1.9%)
部品ねらい	167 (2.0%)	136 (1.8%)	113 (2.0%)	119 (2.1%)	88 (1.4%)	128 (1.9%)
強盗	24 (0.3%)	19 (0.2%)	22 (0.4%)	20 (0.4%)	9 (0.1%)	20 (0.3%)
自動車盗	33 (0.4%)	28 (0.4%)	24 (0.4%)	13 (0.2%)	17 (0.3%)	18 (0.3%)
自動販売機ねらい	73 (0.9%)	203 (2.6%)	44 (0.8%)	19 (0.3%)	8 (0.1%)	14 (0.2%)
ひったくり	85 (1.0%)	35 (0.5%)	28 (0.5%)	14 (0.2%)	18 (0.3%)	11 (0.2%)
合　計	8,413	7,770	5,748	5,628	6,479	6,851

（注）性犯罪…不同意わいせつ、不同意性交等

提供：福岡県警察

②　政令指定都市との比較

平成30年の人口千人当たりの市民生活に身近な犯罪の認知件数について、政令指定都市中「自転車盗」、「住宅侵入窃盗」、「オートバイ盗」、「性犯罪」、「ひったくり」の5つの罪種・手口が、ワースト5位以内に入っていましたが、令和5年には「自転車盗」以外の罪種・手口の人口千人当たりの認知件数が減少し、「自転車盗」及び「住宅侵入窃盗」以外は、ワースト5位以内から外れています。

〈図表９〉政令指定都市における人口千人当たりの市民生活に身近な犯罪の認知件数の比較

（平成30年）

（件）

罪種名順位	自転車盗			住宅侵入窃盗			オートバイ盗			性犯罪			ひったくり		
	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり
1	大阪市	12,533	4.60	千葉市	399	0.41	堺市	298	0.36	大阪市	394	0.14	大阪市	229	0.08
2	福岡市	4,626	2.92	仙台市	420	0.39	神戸市	491	0.32	相模原市	73	0.10	千葉市	61	0.06
3	堺市	2,270	2.73	福岡市	568	0.36	福岡市	445	0.28	福岡市	157	0.10	福岡市	85	0.05
4	さいたま市	3,212	2.47	名古屋市	824	0.35	大阪市	747	0.27	千葉市	89	0.09	相模原市	36	0.05
5	京都市	3,337	2.27	北九州市	310	0.33	京都市	384	0.26	堺市	73	0.09	名古屋市	89	0.04

（令和５年）

（件）

罪種名順位	自転車盗			住宅侵入窃盗			オートバイ盗			性犯罪			ひったくり		
	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり	市名	件数	千人当たり
1	大阪市	12,731	4.59	仙台市	303	0.28	相模原市	205	0.28	大阪市	578	0.21	大阪市	75	0.03
2	福岡市	4,302	2.62	北九州市	242	0.26	堺市	188	0.23	神戸市	202	0.13	堺市	12	0.01
3	名古屋市	5,373	2.31	相模原市	123	0.17	岡山市	153	0.21	仙台市	140	0.13	さいたま市	16	0.01
4	岡山市	1,488	2.08	名古屋市	350	0.15	大阪市	475	0.17	さいたま市	164	0.12	岡山市	8	0.01
5	千葉市	2,021	2.06	福岡市	237	0.14	横浜市	577	0.15	名古屋市	223	0.10	川崎市	17	0.01

（注）福岡市順位について、オートバイ盗11位、性犯罪６位、ひったくり９位

③　自転車盗

令和5年の認知件数は、令和元年水準に近づきつつあります。また、施錠の有無別の発生状況では、平成30年は施錠有の割合が54.2%、無施錠の割合が45.8%でしたが、無施錠の割合が年々高くなってきており、令和4年から50%を超える割合で推移しています。

〈図表10〉施錠の有無別犯罪発生状況

（件）

区　分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
施錠有認知件数	2,508 (54.2%)	2,345 (52.9%)	1,644 (51.6%)	1,629 (52.0%)	1,905 (46.9%)	1,821 (42.3%)
無施錠認知件数	2,118 (45.8%)	2,092 (47.1%)	1,540 (48.4%)	1,504 (48.0%)	2,154 (53.1%)	2,481 (57.7%)
合計	4,626	4,437	3,184	3,133	4,059	4,302

提供：福岡県警察

④　住宅侵入窃盗

過去5年の認知件数の推移を見てみると、おおむね減少傾向にあります。令和5年の侵入手口別の発生状況をみると、無施錠が94件で、全体の39.7%を占めています。

〈図表11〉住宅侵入窃盗の侵入手口別発生状況

（件）

区　分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
無施錠	351 (61.8%)	166 (38.6%)	188 (57.7%)	72 (37.9%)	91 (34.5%)	94 (39.7%)
ガラス破り	96 (16.9%)	130 (30.2%)	48 (14.7%)	18 (9.5%)	74 (28.0%)	54 (22.8%)
その他	121 (21.3%)	134 (31.2%)	90 (27.6%)	100 (52.6%)	99 (37.5%)	89 (37.6%)
合計	568	430	326	190	264	237

提供：福岡県警察

【コラム】 住まいの防犯対策

(1)出入口の防犯対策

玄関の解錠等の手口としては、ピッキングなど鍵を対象に破壊や解錠を行うものと、こじ破りなどドア自体を破壊するものがあり、以下の様な対策があります。

①ワンドア・ツーロック:ひとつのドアにカギを2つ以上つける
②補助鍵:補助鍵は主鍵と離れた位置につける
③ガードプレート:ドアとドア枠のすき間を保護し、こじ開けを防止
④ドアボス:ドア外しを防ぐための金具で丁番側に取り付ける
⑤ドアチェーン:ドアを全開させないための用心鎖
⑥ドアスコープ:ドアを開けずに来訪者を確認するための広角レンズ

(2)窓の防犯対策

一戸建て住宅では、窓ガラスを割って侵入される手口も多いです。窓ガラス割りの対策としては以下の様なものがあります。

①合わせガラス:ガラスを割ることはできても、強靭な中間膜が貫通を防ぐため、侵入・盗難防止にも効果的
②防犯フィルム:室内側のガラスの全面に防犯フィルムを貼ることにより、合わせガラスのような強度を保つことが可能となる
③格子:アルミ面格子は、アルミサッシと一体になったものを選ぶ。
外付けのタイプは、ネジが簡単に外されないように、できるだけ長いネジを用い、下地にしっかり止めつけたり、ネジの頭をつぶし、接着剤などで固定。

(3)その他の防犯対策

出入口や窓自体の防犯性を高める以外に、犯罪者を近づけない対策として次の様な対策があります。

①センサーライト:人が近づくとライトが点灯、もしくは点滅する
②扉・窓センサー:扉や窓が開くと大きなブザー音で侵入者に警告
③ガラスセンサー:ガラスの破壊に伴う振動を感知し、大音量の警告音を鳴らす
④防犯カメラ・テレビモニター付きインターホン:訪問者を撮影することで、侵入者を近づけない効果が期待

出典:住まいづくりの手引き

提供:NPO法人福岡県防犯設備士協会

⑤　性犯罪

令和5年の場所別の発生状況では、住宅が59件で37.6%、道路上が31件で19.7%とあわせて50%を超える割合となっています。

また、被害者年齢別の発生状況では、20歳代が72件、45.9%と最も多い状況ですが、19歳以下も61件、38.8%と多くの割合を占めています。学職別の被害状況は、学生等が4割を超える割合を占めています。

〈図表12〉場所別発生状況（令和５年）

区　　分	住宅	駐車場等	学校（幼稚園等）	道路上	その他	合計
認知件数（件）	59	2	1	31	64	157
割　　合	37.6%	1.3%	0.6%	19.7%	40.8%	

提供：福岡県警察

〈図表13〉被害者の年齢別発生状況（令和５年）

区　　分	13歳未満	13～19歳	20～29歳	30～39歳	40歳以上	合計
認知件数（件）	14	47	72	14	10	157
割　　合	8.9%	29.9%	45.9%	8.9%	6.4%	
	←61件(38.8%)→					

提供：福岡県警察

〈図表14〉被害者の学職別発生状況（令和５年）

区　分	学生等					有職	無職	合計
	小学生以下	中学生	高校生	大学生	専修学校等			
認知件数(件)	12	20	16	10	7	79	13	157
割　　合	7.6%	12.7%	10.2%	6.4%	4.5%	50.3%	8.3%	
	←　65件(41.4%)　→							

提供：福岡県警察

〈参考〉被害者と被疑者の関係別検挙件数（全国）

強制性交等

区　分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
総数（件）	1,165	1,275	1,278	1,315	1,369
面識あり	52.5%	53.6%	53.5%	56.0%	58.7%
面識なし	35.2%	31.0%	31.1%	28.4%	26.3%
親　　族	12.3%	15.5%	15.4%	15.6%	15.0%

強制わいせつ等

区　分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
総数（件）	4,232	3,945	3,716	3,824	4,018
面識あり	28.6%	31.9%	34.1%	35.0%	36.4%
面識なし	67.5%	63.4%	60.2%	58.0%	56.8%
親　　族	3.8%	4.7%	5.7%	7.0%	6.8%

出典：令和５年版犯罪白書

（２）サイバー犯罪の状況

福岡県における令和5年に検挙されたサイバー犯罪(※)は513件です。

福岡市立小・中・高・特別支援学校の学校非公式サイト等への問題のある書き込みや画像について監視する「学校ネットパトロール」によると、学校区分別では、中学校が最も多くなっています。

（※）不正アクセス禁止法違反、コンピュータ・電磁的記録対象犯罪その他犯罪の実行に不可欠な手段として高度情報通信ネットワークを利用する犯罪

〈図表15〉福岡県におけるサイバー犯罪の検挙件数の推移

（件）

区分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
不正アクセス禁止法違反	5	14	42	42	46	51
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	12	1	4	8	7	17
その他サイバー犯罪	391	323	292	341	305	445
合計	408	338	338	391	358	513

提供：福岡県警察

〈図表16〉「学校ネットパトロール」における報告件数

（件）

区分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
小学校	29	14	5	16	51	6
中学校	1,194	1,311	728	719	742	1,127
高等学校	292	159	782	1,357	1,012	696
特別支援学校	0	0	0	0	2	0
合計	1,515	1,484	1,515	2,092	1,807	1,829

（３）薬物事犯の検挙状況

令和5年の福岡市内の薬物事犯は369人が検挙されています。なお、近年は大麻による検挙人員が覚醒剤による検挙人員を上回っています。

〈図表17〉薬物事犯検挙人員の推移

（人）

区分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
覚せい剤	214	194	202	158	133	141
大麻	71	92	125	165	135	198
麻薬	5	4	16	5	1	19
医薬品医療機器法	2	0	0	1	1	7
その他薬物	5	12	12	14	4	4
合計	297	302	355	343	274	369

（注）福岡市内に所在する警察署で検挙された人員

提供：福岡県警察

（４）少年非行の状況

検挙･補導人員をみると、52.9％が窃盗犯で検挙されています。年齢別では13歳以下、16歳の順に割合が高く、学職別では高校生、中学生の順で多く、全体の52.2％を占めています。

〈図表18〉刑法犯の検挙・補導人員（令和５年）

区　　分	合 計	罪　種　別　内　訳					
		凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他
検挙･補導人員(人)	437	19	83	231	7	13	84
割　　合	-	4.3%	19.0%	52.9%	1.6%	3.0%	19.2%

（注）福岡市内に所在する警察署が検挙し、または補導した人員

提供：福岡県警察

〈図表19〉年齢別の検挙・補導人員（令和５年）

区　　分	13歳以下	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	合計
検挙･補導人員(人)	120	35	65	66	43	45	59	433
割　　合	27.7%	8.1%	15.0%	15.2%	9.9%	10.4%	13.6%	

（注）福岡市内で検挙し、または補導した人員

提供：福岡県警察

〈図表20〉学職別の検挙・補導人員（令和５年）

区　　分	小学生	中学生	高校生	大学生	他学生	有職少年	無職少年	合計
検挙･補導人員(人)	78	102	124	19	20	62	28	433
割　　合	18.0%	23.6%	28.6%	4.4%	4.6%	14.3%	6.5%	

（注）福岡市内で検挙し、または補導した人員

提供：福岡県警察

〈図表21〉再犯者率（14歳以上の犯罪少年に占める再犯者の割合）（令和５年）

区　　分	割合
県　合　計	26.6%
福　岡　市	24.7%

提供：福岡県警察

5　近年の特筆すべき犯罪情勢

（１）特殊詐欺等の状況

福岡市における特殊詐欺の被害件数は、令和元年から年々増加しており、令和5年の被害額については、統計史上最高額を記録している状況です。高齢者の被害は全体の70％を占めており、特に女性高齢者が多い傾向があります。

また、SNS型投資詐欺、SNS型ロマンス詐欺については、令和5年下半期から被害が急増しており、令和6年1月から3月までに、全国では認知件数2,303件、被害額約280億円、福岡県においても認知件数144件、被害額約16億円と被害が拡大しており、深刻な状況となっています。

〈図表22〉特殊詐欺の認知件数と被害額

区　分		H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
福岡市	認知件数(件)	143	86	93	129	163	172
	被害額(万円)	26,587	27,214	19,388	26,600	45,903	69,881
福岡県	認知件数(件)	359	279	201	329	368	576
	被害額(万円)	66,745	67,754	38,854	76,460	92,283	133,149

提供：福岡県警察

〈図表23〉特殊詐欺の被害状況（令和５年）

区　分	男性	高齢者（65歳以上）	高齢者の割合	女性	高齢者（65歳以上）	高齢者の割合	合計	高齢者（65歳以上）	高齢者の割合
認知件数（件）	56	34	60.7%	116	87	75.0%	172	121	70.3%

提供：福岡県警察

〈図表24〉福岡市内の特殊詐欺被害阻止状況

区　分	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
阻止件数(件)	181	106	100	201	171	214
阻止額(万円)	11,833	4,102	988	6,173	2,128	8,506
認知件数(件)	143	86	93	129	163	172
被害額(万円)	26,587	27,214	19,388	26,600	45,903	69,881

提供：福岡県警察

〈特殊詐欺の分類〉

手口	内容
オレオレ詐欺	親族、警察官、弁護士等を装い、親族が起こした事件・事故に対する示談金等を名目に金銭等をだまし取るもの
預貯金詐欺	親族、警察官、銀行協会職員等を装い、あなたの口座が犯罪に利用されており、キャッシュカードの交換手続きが必要であるなどの名目で、キャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの
架空料金請求詐欺	未払いの料金があるなど架空の事実を口実とし金銭等をだまし取るもの
還付金詐欺	税金の還付等に必要な手続きを装って被害者にATMを操作させ、口座間送金により財産上の不法の利益を得るもの
融資保証金詐欺	実際には融資していないにもかかわらず、融資を申し込んできた者に対し、保証金等の名目で金銭等をだまし取るもの
金融商品詐欺	架空又は価値の乏しい未公開株、社債等の有価証券、外国通貨、高価な物品等に関する虚偽の情報を提供し、購入すれば利益が得られるものと誤信させ、その購入名目等で金銭等をだまし取るもの
ギャンブル詐欺	不特定多数の者が購入する雑誌に「パチンコ打ち子募集」等と掲載したり、不特定多数の者に対して同内容のメールをするなどし、これに応じて会員登録等を申し込んできた被害者に対してパチンコ攻略法等の虚偽の情報を提供するなどした上で、会員登録料や情報料等の名目で金銭等をだまし取るもの
交際あっせん詐欺	不特定多数の者が購入する雑誌に「女性紹介」等と掲載したり、不特定多数の者に対して同内容のメールを送信するなど、これに応じて女性の紹介等を求めてきた被害者に対して会員登録料金や保証金等の名目で金銭等をだまし取るもの
キャッシュカード詐欺盗	警察官や銀行協会、大手百貨店等の職員を装って被害者に電話をかけ、「キャッシュカードが不正に利用されている」等の名目により、キャッシュカード等を準備させた上で、同キャッシュカード等を窃取するもの
その他の特殊詐欺	上記のいずれの類型にも該当しない特殊詐欺

〈SNS型投資詐欺・SNS型ロマンス詐欺の分類〉

手口	内容
SNS型投資詐欺	相手方が、主としてSNSその他の非対面での欺もう行為により投資を勧め、投資名目で金銭等をだまし取るもの
SNS型ロマンス詐欺	相手方が、SNSその他の非対面での連絡手段を用いて被害者と複数回やり取りすることで恋愛感情や親近感を抱かせ、金銭等をだまし取るもの

出典：警察庁ホームページ

（２）匿名・流動型犯罪グループの特徴

匿名･流動型犯罪グループは、中核的人物が、自らに捜査が及ぶことのないようにするため、匿名性の高い通信手段を使用して実行犯への指示をするなど、各種犯罪により得た収益を吸い上げる中核部分は匿名化される一方、犯罪の実行者は、SNSでその都度募集され、検挙されても新たな者が募集されるなど流動化しているという特徴がみられます。

また、特殊詐欺をはじめ、組織的な強盗や窃盗、違法なスカウト行為、悪質なリフォーム業、薬物密売等の様々な犯罪を敢行し、その収益を有力な資金源としているほか、犯罪によって獲得した資金を風俗営業等の新たな資金獲得活動に充てるなど、その収益を還流させながら、組織の中核部分が利益を得ている構造がみられます。

出典：令和６年警察白書

【コラム】 ～犯罪実行者募集情報の特徴～

犯人グループが SNS 等を通じて実行犯を募集する、いわゆる闇バイトに応募した若者等による犯罪が問題となっています。

犯罪実行者の募集は、通常のアルバイト募集のように見えても、以下のような特徴があります。

- **使用されたSNS**
  大部分がX（旧 Twitter）
- **報酬額**
  高額であることを強調する文言が多い（「高収入」「日給5万円から」等）
- **報酬支払い**
  即日に支払われることを強調する文言が多い（「即日払い」「即日即金」「お金配りますよ」等）
- **業務内容**
  人又は物の運搬や荷物の受取りなど簡単な仕事であることを強調する文言が多い（「運びの仕事」「ドライバー」「送迎」「書類運搬」「荷物を運ぶ仕事」等）
- **業務の性質**
  違法ではないことや、楽で簡単な仕事であることを強調する文言が使われることもある（「ホワイト案件」「ホワイトバイト」「簡単」等）
- **募集条件**
  即座に参加できること（「本日稼働可能」等）、また運搬等の業務に対応できること（「要普通免許」等）を条件としている場合もある
- **通信手段**
  Xでのやりとりから、匿名性の高いアプリ（シグナル）に誘導されることが多い

出典：福岡県警察ホームページ

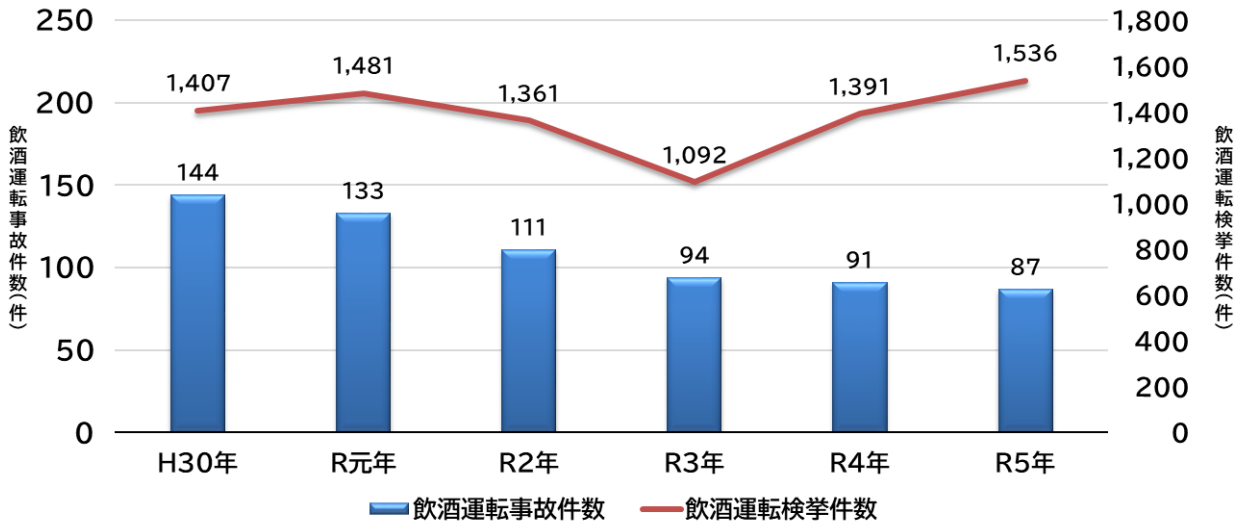
（３）飲酒運転の撲滅

平成18年8月に海の中道大橋において発生し、3名の幼児が犠牲となった飲酒運転による交通事故を契機として、市民の飲酒運転撲滅に向けた気運が高まり、地域や市民団体、NPO、事業者、行政、警察などの関係機関・団体により、飲酒運転撲滅大会の開催を始めとして様々な飲酒運転撲滅の取組みが行われてきました。

また、平成19年には、刑法改正による自動車運転過失致死傷罪新設や、道路交通法改正による飲酒運転者への罰則強化、酒類提供者などの飲酒運転周辺者に対する罰則の新設が図られるなど、飲酒運転に関する厳罰化が図られた結果、市内の飲酒運転による交通事故は大幅に減少するに至りましたが、近年の飲酒運転による検挙件数は、令和4年から増加傾向に転じており、飲酒運転の撲滅（ゼロ）には未だに至っておりません。

出典：第11次福岡市交通安全計画

〈図表25〉福岡県内の飲酒運転事故、検挙件数



提供：福岡県警察